

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : 父と母を敬いなさい (エフェソの信徒への手紙 6:2)

保育目標：0歳児	・先生と安心して過ごす中で、園生活に慣れていく。
1歳児	・安心して、保育者と好きなものを見つけて遊ぶ。
2歳児	・周りの大人に十分に受け入れられて、思いを表現する。
3歳児	・友だちや先生と好きなことを見つけて遊ぶ。
4歳児	・感じて考えて自分の思いをもって生活する。恵みを喜び、神さまに感謝する。
5歳児	・自分のやり方で動き、様々なことに興味をもつ。恵みを喜び、神さまに感謝する。

若葉を渡る風が、爽やかな季節を運んでくれる5月。

六浦こども園の2022年度の新しい歩みが始まってひと月が過ぎようとしています。年度が始まってすぐに新型コロナウイルスによる休園となり子ども達と保護者の皆様にはご心配やご不自由をお掛けしました。皆様のご理解とご協力があった子ども達の賑やかな声が響く園生活が戻り、神さまに守られながら歩めている事に感謝しています。

ようやく本格的な園生活が始まりました。泣き声、笑い声、友達とはしゃぐ声、時には叫び声。例年より少し遅く始まった園生活ですが、六浦こども園の子ども達の息吹を感じる今日この頃です。

新しい環境の中で少しずつ面白い事や自分の居場所を見つけ始めた子ども達もいますが、まだ戸惑いの中にいる子どもも多くいます。新入児の保護者の方の中には登園時に泣かれたり行き渋られて後ろ髪をひかれる思いや焦りを感じている方もいらっしゃるでしょう。

「泣く」は子どもの「言葉」です。「気持ちを表す」「気持ちを表す」大事な方法の一つです。赤ちゃんにとっては「お腹空いたよ」「眠たいよ」と命の営みに必要な言葉の代わりです。でも「泣く」行為は大人を戸惑わせ、心配にさせますよね。

乳児クラス新入のAちゃんは保育の1日目。状況が分からぬまま保護者と離れました。「お母さんがいない」「見た事の無い物ばかり」「初めての部屋」すべての状況が初めてで遊ぶどころか泣く事さえできませんでした。目をくりくりさせてただただ周囲を無表情で見回すMちゃん。異国の地に一人置かれて頭の中がパニックになっているようなものと推測し、心細く不安だろうと傍に行きましたが、これまた知らない人が寄ってきて驚いている表情だったのでそっと傍にいました。おもちゃを動かし他の子と遊ぶ様子を見てもらう様にしていると次第に手渡すおもちゃに触れる様になりましたが、自分から手を出すにはまだ勇気がいる様でした。次に登園した時、「こども園」という場所の事が少しわかってきたAちゃんは「いやだー!」とばかりに大きな声で泣きました。私は「泣ける様になって良かったね」「そうやって気持ちを出して先生にしっかり受けとめてもらおうね」と、保護者の方の後姿には「慌てずにゆったりと構えていて下さいね」と心の声をかけました。「泣く」という感情を出せる事、そして出せる環境を保障する大切さを感じました。

また先週末の事、園庭にでると大泣きしている年中のB君に出会いました。見るとB君の服の胸の部分が濡れていました。「痛い所はない? 転んだの? 一緒に着替えに行く?」と子どもの話を丁寧に聞こうとしている保育者の姿が私の目に止まりました。しかし語りかける度にB君の泣き声は大きくなります。そして最後に「こないで!」と一言。「わかった。気持ちが落ち着いたら来るね」とその保育者は少し下がって見守っていました。手を握りしめ、しかめっ面をしながら泣いているB君の姿を遠くから見ている私は、そばに行き、これまでの様子を見ていなかったかのように「どうした? 何か怒ってる?」と聞きました。するとB君の涙がずっと止まり私を見ました。(渦中にいると見えにくくなっている事が遠くから客観的に見ていると分かる、と言う事は時々あります)「すっごく頭にきた事があったんだね」と言うと「うん」と首を縦に振り、水道の方を指さして「あそこで水かけられた」と教えてくれました。私が相手に話をしている間に気持ちが切り替わったのかB君は服を脱ぎ始め、相手が謝る声を聞くや否や「暑いから肌着だけで遊ぶ!」と言うと一緒に遊んでいたであろう仲間がいる砂場へ走って行きました。B君の様子から「謝ってもらいたい」と言うよりは「悔しい気持ち」を分かって欲しかった、「頭にきた!」という言葉に出来ない憤りを伝えたかったのだと私は感じました。

一言に「泣く」と言ってもそれぞれに意味や理由があります。まだ言葉がでない赤ちゃんも日頃おしゃべり好きな子どもも、そして大人だって言葉に出来ずに「泣く」事で気持ちを表す事はあります。

こどもの「声」そして「心の声」に耳と気持ちを傾け、安心して自分の居場所を見つけ笑顔で過ごせる様に寄り添っていきたく思います。保護者の皆様、「成長の仕方も気持ちの表し方も楽しみ方も人それぞれ。一人一人違っていい。そして今は過程の時。今の経験や歩みはいつか結果となって子どもが見せてくれる」と心にとめて、焦らず、大きな気持ちと笑顔で見守っていて下さいね。ご一緒をお願いいたします。

主任 藤肥 礼子